

八千代SOL、クラウド型

八千代ソリューションズ（東京都東区、水野高志社長）が手がけるクラウド設備管理システム「MENTENA（メンテナ）」の利用社数が伸びている。サービス開始から約5年で自動車や精密機器、化学など幅広い業界でこれまでに600社超の利用実績がある。さらに7月から段階的に生成AI（人工知能）機能を実装し、入力作業の効率化などを実現している。製造業などのデジタル変革（DX）を推進し、現場の生産性や質の向上を支援する。

設備管理にAI実装



タブレット端末を現場で点検しながら入力するなど、クラウドへの移行で現場作業の効率化を実現

八千代ソリューションズ（東京都東区、水野高志社長）は、総合建設コン（都賀区）の全額出資子会社。MENTENAは官公庁向けビジネスで培ったノウハウを製造業でも展開するため、八千代エンジニアリングが5年前に提供開始した。その後、サービスが軌道に乗ってきたため、2024年7月に八千代ソリューションズを設立し、同社がサービスを展開している。水野社長は人手不足と設備の老朽化など「社会インフラの維持と製造業は非常に近い特徴がある」と指摘する。

MENTENAは、設備や施設管理向けのクラウド型設備管理システム。メンテナは、製造業の持続可能性を支援したいと考え、設立した。MENTENAの目指す方向性は、「今は設備保全とい

インタビュー

製造業の持続可能性支援

水野社長に今後の事業展開を聞いた。

（小川淳）

か。



社長 水野 高志氏

「製造業は、団塊の世代が大量退職する『2025年問題』による労働力の危機と、（設備の老朽化やITサポートが終える『2025年の崖』というビジネスプロセスの危機である）二つの課題をどう考えていますか。

「社会インフラも製造業も現場が元気でなければ地域が衰退する。インフラ保全で培ったノウハウを応用し、経営判断の観点から使えるツールに育てていきたい」